

## 1 1. 貝類

### 1 1-1 貝類相の特徴

岐阜市で確認されている貝類は、表 11-1 のとおり 33 科 101 種で、これは県内で確認されている貝類(約 180 種)の 6 割近くにあたり、岐阜市の面積が県の 2% 足らずにして非常に多くの種類の貝類が生息していることになる。また、一般的に陸産貝類が豊富な石灰岩地帯や大規模な落葉広葉樹林帯が存在しないにもかかわらず、これだけの種数が生息することは、貝類の多様性が県内でも極めて高いと言えるであろう。なお、101 種のうち 94 種が 2009~2013 年度の 5 年間の現地調査において確認されている。

これらの貝類相は、陸産貝類相・淡水産貝類相ともに、長良川を挟んで北部地域と南部地域とで大きく 2 つに分けられるのが特徴である。淡水産貝類においては、全国各地で大半が絶滅危惧種などの稀少種に指定されているイシガイ科やカワシンジュガイ科のほとんどの種が岐阜市内に生息している。特にこれらは北部地域の河川、水路や溜池などに生息しており、北部地域の環境条件が良好な証拠でもある。一方で南部地域では水質が悪く、スクミリングガイ、サカマキガイ、ヒメタニシなどの汚濁耐性種が多産する水域が多い。陸産貝類においても、いわゆる稀少種は主に北部地域に分布し、南部地域では外来種や市街地性種の種数と個体数が多い。キセルガイ科の種数が極めて少ないのも陸産貝類相の特徴である。

### 1 1-2 岐阜市を代表する貝類

岐阜市内において、分布域が広い(確認メッシュ数が多い)陸産貝類としては、ウスカワマイマイ、イセノナミマイマイ、カドバリニッポンマイマイの 3 種が比較的大型種であり目につきやすい。ウラジロベッコウ、オカチョウジガイ、ヒメベッコウ、トクサオカチョウジガイなどの小型種・微小種は、分布域が広いばかりでなく生息個体数もかなり多い。

環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類、岐阜県レッドデータブックで情報不足に指定されているレンズガイは、1979 年の揖斐川町での発見以後の記録が無かった。長良川沿いの数地点で生体または新鮮な死殻を確認できたことにより、市内でのレンズガイの繁殖は確実であり特徴種として注目したい。

分布域が広い淡水産貝類としては、サカマキガイ、ヒメタニシ、カワニナ、タイワンシジミ、チリメンカワニナ、スクミリングガイが、各地点における生息個体数も非常に多く目立つ存在である。

また、イシガイ科二枚貝の稀少種の大半が市内北部に生息しているという点も特徴的である。環境省レッドリストで準絶滅危惧に指定されているクロダカワニナが、天神川長池橋下流、板屋川・権現川合流点下、伊自良川(伊鳥緑地北部)などで一定の個体群を維持している点も注目に値する。

表 11-1 生息記録のある貝類(1/3)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地		
ニナ目	ヤマタニシ科	ヤマタニシ	<i>Cyclophorus herklotsi</i>			○		
		アツブタガイ	<i>Cyclotus (Procyclus) campanulatus</i>			○		
		ミジンヤマタニシ	<i>Nakadaella micron</i>		○	○		
	ゴマガイ科	キュウシュウゴマガイ	<i>Diplommatina tanegashimae kyushuensis</i>			○		
		ヒダリマキゴマガイ	<i>Diplommatina (Sinica) pusilla</i>			○		
	タニシ科	マルタニシ	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>		○	○	○	
		オオタニシ	<i>Cipangopaludina japonica</i>			○	○	
		ヒメタニシ	<i>Sinotaia quadrata histrica</i>		○	○	○	
	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i>			○	○	
	ミスツボ科	コモチカワツボ	<i>Pomatopyrgus antipodarum</i>			○		
	エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ	<i>Gabbia kiusiuensis</i>			○		
	カワサンショウガイ科	ウスイロオカチグサ	<i>Paludinassiminea debilis</i>			○		
	カワニナ科	タテヒタカワニナ	<i>Semisulcospira (Biwamelania) decipiens</i>			○		
		イボカワニナ	<i>Semisulcospira (Biwamelania) decipiens multigranosa</i>			○	○	
		カコメカワニナ	<i>Semisulcospira (Biwamelania) decipiens reticulata</i>			○	○	
		クロダカワニナ	<i>Semisulcospira (Biwamelania) kurodai</i>			○		
		カワニナ	<i>Semisulcospira libertina</i>		○	○	○	
		チリメンカワニナ	<i>Semisulcospira reiniana</i>		○	○	○	
	モノアラガイ目	ケンガイ科	ニホンケンガイ	<i>Carychium nipponense</i>			○	
サカマキガイ科		サカマキガイ	<i>Physa acuta</i>		○	○	○	
モノアラガイ科		ヒメモノアラガイ	<i>Fossaria ollula</i>			○	○	○
		コシダカヒメモノアラガイ	<i>Fossaria truncatula</i>			○		
		モノアラガイ	<i>Radix (Radix) japonica</i>			○	○	
		ハブタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i>			○	○	
ヒラマキガイ科		ヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus chinensis</i>		○		○	
		ヒメヒラマキミズマイマイ	<i>Gyraulus pulcher</i>				○	
		ヒラマキガイモドキ	<i>Polypylis hemisphaerula</i>				○	
カワコサラガイ科		カワコサラガイ	<i>Laevapex nipponica</i>			○		
収眼目	ホソアシヒダナメクシ科	イボイボナメクシ	<i>Granulilimax fuscicornis</i>			○		
マイマイ目	オカモノアラガイ科	ヒメオカモノアラガイ	<i>Succinea lyrata</i>			○		
		ナガオカモノアラガイ	<i>Oxyloma hirasei</i>			○	○	
	キハサナキガイ科	ナタネキハサナキガイ	<i>Vertigo eogia eogia</i>			○		
	マキゾメガイ科	マルナタネガイ	<i>Parazoogenetes orcula</i>			○		
		ヒラトマルナタネガイ	<i>Parazoogenetes (Salpingoma) japonicum</i>			○		
	ミジンマイマイ科	ミジンマイマイ	<i>Vallonia pulchellula</i>			○		
	キセルガイ科	ナミコキセル	<i>Euphaedusa tau</i>		○		○	
		ナミキセル	<i>Stereophaedusa (Stereophaedusa) japonica japonica</i>				○	
	オカチョウジガイ科	マルオカチョウジガイ	<i>Allopeas brevispirum</i>		○			
		オカチョウジガイ	<i>Allopeas clavulinum kyotoense</i>		○	○	○	
		トクサオカチョウジガイ	<i>Paropeas achatinaceum</i>		○	○	○	
		ホソオカチョウジガイ	<i>Allopeas pyrgula</i>		○		○	
		オカチキレガイ	<i>Subulina octona</i>		○			
	ナタネガイ科	ミジンナタネガイ	<i>Punctum atomus</i>			○		
	コハクガイ科	ヒメコハクガイ	<i>Hawaiiia minuscula</i>				○	
		コハクガイ	<i>Zonitoides (Zonitoides) arboreus</i>		○	○	○	
	イシノシタ科	ノハライシノシタ	<i>Helicodiscus (Hebetodiscus) inermis</i>			○		
	ナメクシ科	ナメクシ	<i>Meghimatium bilineata</i>				○	
		ヤマナメクシ	<i>Meghimatium fruhstorferi</i>			○	○	

表 11-1 生息記録のある貝類 (2/3)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
マイマイ目	コウラナメクジ科	ノハラナメクジ	<i>Deroceras reticulatum</i>			○
		チャコウラナメクジ	<i>Lehmannia valentiana</i>			○
ヘッコウマイマイ科		ヒラヘッコウ	<i>Bekkochlamys micrograpta</i>	○		○
		ヒメヘッコウ	<i>Discoconulus sinapidium</i>			○
		ヤクシマヒメヘッコウ	<i>Discoconulus yakuesis</i>			○
		キビガイ	<i>Gastrodontella stenogyra</i>			○
		レンズガイ	<i>Otiosiopsis japonica</i>			○
		ハリマキビ	<i>Parakaliella harimensis</i>			○
		ヒゼンキビ	<i>Parakaliella hizenensis</i>			○
		ウスイロシタラ	<i>Parasitala pallida</i>			○
		マルシタラ	<i>Parasitala reinhardti</i>			○
		コシタカシタラ	<i>Coneuplecta (Sitalina) circumcincta</i>	○		○
		ウメムラシタラ	<i>Coneuplecta (Sitalina) japonica</i>			○
		カサキビ	<i>Trochochlamys crenulata crenulata</i>			○
		オオウエキビ	<i>Trochochlamys fraterna</i>			○
		タカキビ	<i>Coneuplecta praealta</i>			○
		ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i>	○		○
		ウラジロヘッコウ	<i>Urazirochlamys doenitzii</i>			○
		オオクラヒメヘッコウ	<i>Yamatochlamys lampra</i>			○
ナミヒメヘッコウ	<i>Yamatochlamys vaga</i>	○	○	○		
ニッポンマイマイ科		ケハダビロウトマイマイ	<i>Nipponochloritis fragilis</i>			○
		ビロウトマイマイ	<i>Nipponochloritis oscitans</i>			○
		ニッポンマイマイ(カドハリニッポンマイマイ型)	<i>Satsuma japonica carinata</i>			○
		コヘソマイマイ	<i>Satsuma myomphala</i>			○
		ヤマタカマイマイ	<i>Satsuma papillifoemis</i>			○
オナジマイマイ科		ウスカワマイマイ	<i>Acusta despecta sieboldiana</i>	○	○	○
		コオヘソマイマイ	<i>Aegista mimula</i>			○
		オオケマイマイ	<i>Aegista vulgivaga</i>			○
		コクオナジマイマイ	<i>Bradybaena pellucida</i>			○
		オナジマイマイ	<i>Bradybaena similaris</i>	○		○
		クチヘニマイマイ	<i>Euhadra amaliae</i>	○		
		イセノナミマイマイ	<i>Euhadra eoa communisiformis</i>	○		○
		ギョーリキマイマイ	<i>Euhadra eoa gulicki</i>	○		
		ミノマイマイ(クワイワマイマイ亜種)	<i>Euhadra senckenbergiana minoensis</i>	○		
		マメマイマイ	<i>Trishoplita commoda</i>	○		○
		オトメマイマイ	<i>Trishoplita goodwini</i>			○
		ヒルゲントルフマイマイ	<i>Trishoplita hilgendorffi</i>			○
		タワラガイ科	タワラガイ	<i>Sinoennea iwakawa</i>		
イシガイ目	カワシンジュガイ科	カワシンジュガイ	<i>Margaritifera laevis</i>		○	○
	イシガイ科	タガイ	<i>Anodonta japonica</i>		○	○
		ヌマガイ	<i>Anodonta lauta</i>	○	○	○
		ドブガイ	<i>Anodonta woodiana</i>		○	
		カラスガイ	<i>Cristaria plicata</i>		○	
		オバエボシガイ	<i>Inversidens brandti</i>		○	○
		マツカサガイ	<i>Inversidens (Pronodularia) japonensis</i>		○	○
		トンガリササノハガイ	<i>Lanceolaria grayana</i>	○	○	○
		カタハガイ	<i>Obovalis omiensis</i>		○	○
		イシガイ	<i>Unio (Nodularia) douglasiae nipponensis</i>	○	○	○

表 11-1 生息記録のある貝類 (3/3)

目名	科名	和名	学名	文献	資料	現地
マルスダレガイ目	シジミ科	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i>		○	○
		ヤマトシジミ	<i>Corbicula japonica</i>			○
		マシジミ	<i>Corbicula leana</i>	○	○	○
	マシジミ科	ウエジマシジミ	<i>Pisidium (Odhneripisidium) uejii</i>			○
	ドブシジミガイ科	ドブシジミ	<i>Sphaerium japonicum</i>		○	○
5目	33科	101種		29種	35種	94種

注)表中の「文献」「資料」の欄は、13-3-1 に示した「文献」「資料」に記載のあった種を示す。また「現地」については、2009～2013 年度に実施した現地調査で記録された種を示す。

### 11-3 重要な貝類

市内で確認されている重要な貝類<sup>30</sup>は表 11-2 のとおり 14 科 35 種で、全生息種数の 34%にあたる。

陸産貝類では、イボイボナメクジ、ナガオカモノアラガイ、ナタネキバサナギガイ、ヒラベッコウ、ヒゼンキビ、ウメムラシタラ、オオウエキビ、ヒメカサキビ、タカキビ、ケハダビロウドマイマイ、ビロウドマイマイ、ヤマタカマイマイ、ヒルゲンドルフマイマイなどが市内から発見されているが、ヤマタカマイマイは生息個体数が極めて少なく市内では危機的な状況である。また、重要種として全国および県の指定はないものの、ナミギセルは岐阜市内において絶滅寸前であることがわかった。本種を新たに重要種に指定して注目すべきであろう。

淡水産貝類では、マルタニシ、オオタニシ、ヒメマルマメタニシ、クロダカワニナ、ヒラマキガイモドキ、カワシンジュガイ、カラスガイ、オバエボシガイ、マツカサガイ、トンガリササノハガイ、カタハガイ、イシガイ、マシジミなどが市内から発見されているが、中でもカワシンジュガイ、カラスガイ、カタハガイは、生息地点が少なく生息個体数も極めて少ないので市内からの絶滅が心配される。

重要な貝類の概要・分布状況などについては、表 11-3 のとおりである。

<sup>30</sup> 重要な貝類：以下の 6 文献に記載のある種を対象とした。

- ・「文化財保護法」：「文化財保護法」（法律第 214 号，昭和 25 年 5 月 30 日）および文化財保護法に関する条例
- ・「種の保存法」：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（法律第 76 号，平成 4 年 6 月 5 日）
- ・「県条例」：「岐阜県希少野生生物保護条例」（岐阜県条例第 22 号，平成 15 年 3 月）
- ・「市条例」：「岐阜市自然環境の保全に関する条例」（岐阜市条例第 20 号，平成 15 年 3 月）
- ・「環境省 RL」：「環境省レッドリスト-貝類-」（環境省，2012 年）
- ・「県 RL」：「岐阜県レッドリスト-動物編-」（岐阜県，平成 21 年 3 月）

表 11-2 生息記録のある重要な貝類

科名	和名	文化財保護法	種の保存法	県条例	市条例	環境省RL	県RL
タニシ科	マルタニシ					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
	オオタニシ					準絶滅危惧	
エゾマメタニシ科	ヒメマルマメタニシ					絶滅危惧Ⅱ類	情報不足
カワナ科	タテヒダカワナ					準絶滅危惧	
	イボカワナ					準絶滅危惧	
	カコメカワナ					準絶滅危惧	
	クロダカワナ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ					情報不足	
	モノアラガイ					準絶滅危惧	
ヒラマキガイ科	ヒラマキミスマイマイ					情報不足	
	ヒメヒラマキミスマイマイ					情報不足	
	ヒラマキガイモトキ					準絶滅危惧	
ホソアシヒダナメシ科	イボイボナメシ				準絶滅危惧	情報不足	
オカモノアラガイ科	ナガオカモノアラガイ					準絶滅危惧	
キハサナキガイ科	ナタネキハサナキガイ					絶滅危惧Ⅱ類	
ベッコウマイマイ科	ヒラベッコウ					情報不足	
	レンズガイ					絶滅危惧Ⅱ類	情報不足
	ヒゼンキビ					準絶滅危惧	
	ウメムラシタラ					準絶滅危惧	
	オオウエキビ					情報不足	
	タカキビ					準絶滅危惧	情報不足
	ヒメカサキビ					準絶滅危惧	
ニッポンマイマイ科	ケハタビロウトマイマイ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
	ビロウトマイマイ					情報不足	
	ヤマタカマイマイ					準絶滅危惧	準絶滅危惧
オナジマイマイ科	ヒルゲントルフマイマイ				準絶滅危惧	準絶滅危惧	
カワシンジュガイ科	カワシンジュガイ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
イシガイ科	カラスガイ					準絶滅危惧	情報不足
	オハエボシガイ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅰ類
	マツカサガイ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	トンガリササノハガイ					準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類
	カタハガイ					絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類
	イシガイ						絶滅危惧Ⅱ類
シジミ科	ヤマトシジミ					準絶滅危惧	
	マシジミ					絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧
14科	35種	0種	0種	0種	0種	34種	17種

注)表中の各カテゴリーの内容については、以下のとおりである。

- 環境省 RL  
 絶滅危惧Ⅱ類：(VU)、現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの。  
 準絶滅危惧：(NT)、現時点での絶滅の危険度は小さいが、生息条件の変化によっては、「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの。  
 情報不足：(DD)、評価するだけの情報が不足している種。
- 県 RL  
 絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。  
 絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。  
 準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。  
 情報不足：県内において、評価するだけの情報が不足している種。

表 11-3 重要な貝類の概要等 (1/7)

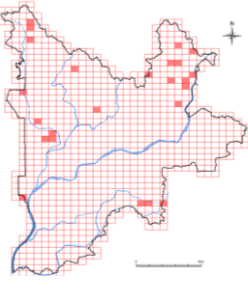

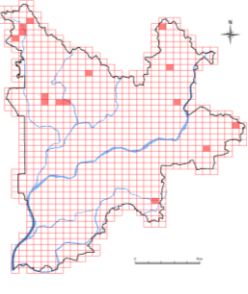

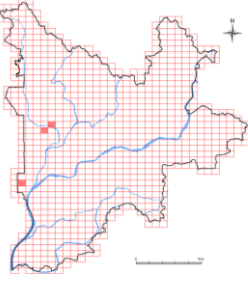

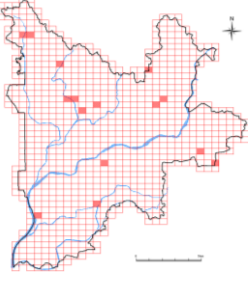

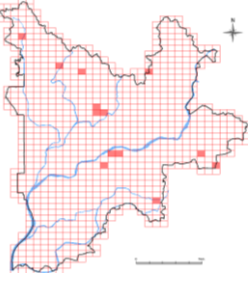

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>マルタニシ</b> <i>Cipangopaludina chinensis laeta</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) エナ目 (MESOGASTROPODA) タニシ科 (Viviparidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は円錐形で各螺層の膨らみは強く縫合は深い。殻表面には刻点列状の彫刻がある。殻高は40～50mm程度。近縁種のオオタニシに似ているが、オオタニシよりやや小型で、殻の形が丸みを帯びる。主に、水田・池・沼などの淡水の止水域に生息する。育児嚢で稚貝を育てる卵胎生。食用になる。かつては水田などに多く生息していたが、農業散布などによる水質の悪化、水田の乾田化などにより日本各地で分布域や個体数が減少している。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、大垣市、羽島市、美濃加茂市、関市、高山市、飛騨市、養老町、垂井町、池田町などに記録がある。</p> <p><b>【市内分布】</b>北野南、太郎丸、雑倉、木田、切通、森西、石原、小野、高田、河渡、彦坂川北など北部地域に多い。</p>		 <p>撮影:市原俊</p>
<p><b>オオタニシ</b> <i>Cipangopaludina japonica</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) エナ目 (MESOGASTROPODA) タニシ科 (Viviparidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は高い円錐形でヒメタニシに似るがより大型で、殻底に比較的に明瞭な角があるものが多い。殻高は50～60mm程度で、環境条件がよいと80mm前後まで成長する。水田にも見られるが、水の干上がない池沼や湧水のある場所などに多い。育児嚢で稚貝を育てる卵胎生。以前は日本各地で普通に生息していたが、家庭排水や農業などによる水質の悪化、水田の乾田化や圃場整備などによる生息環境の変化により激減している。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、山岡町、岩村町、海津町、大垣市、七宗町、恵那市、中津川市などの溜池や水田で確認されている。</p> <p><b>【市内分布】</b>板屋川源流部、出屋敷北部、上籾倉公民館東棚田、硯石池、下池、於母ヶ池、奥ヶ池、田頭下池などで発見した。</p>		 <p>撮影:市原俊</p>
<p><b>ヒメマルマメタニシ</b> <i>Gabbia kiusiuensis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) エナ目 (MESOGASTROPODA) エゾマルマメタニシ科 (Bithyniidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻高6～7mm程度の小型種。殻は長卵形で、螺塔の高さや縫合の深さには多少の変異がある。各層は平滑で光沢がありよく膨れる。蓋は石灰質で厚い。もともと生息地が局限される稀少な種で、生態に関する知見は極めて少ない。兵庫県以西の本州、四国、九州に分布し、岐阜県は本種の分布の東限にあたることとされている。水田や水田周辺の水路に生息するが、農業使用、圃場整備、水田の乾田化などで生息地が減少している。</p> <p><b>【県内分布】</b>大垣市福田町、養老郡養老町祖父父の水田地帯で発見されている。</p> <p><b>【市内分布】</b>西河渡3丁目(西部)水田および東板屋(北東部)水田で発見した。</p>		 <p>撮影:川瀬基弘</p>
<p><b>タテヒダカワニナ</b> <i>Semisulcospira (Biwamelania) decipiens</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) エナ目 (MESOGASTROPODA) カワニナ科 (Pleuroceridae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>体層から全体的に細長く、縦肋が顕著で縷状になる。殻底肋は2～3本。殻高は30mm程度。琵琶湖水系の固有種(特産種)であり、岐阜市には分布していない。しかし、ホテル養殖のためのエサ資源として人為的に琵琶湖水系から岐阜市内各地に大量投入された。それらが一部の地域で生き残っているか、あるいは繁殖している可能性もある。琵琶湖水系特産のエソカワニナやカゴメカワニナと極めて近縁である。</p> <p><b>【県内分布】</b>滋賀県琵琶湖水系の固有種(特産種)であるため、岐阜県内に自然分布はしていない。</p> <p><b>【市内分布】</b>雑倉川、板屋川、戸石川、太郎丸野田や芥見影山の水路、岩井の念珠池などで確認された。</p>		 <p>撮影:市原俊</p>
<p><b>イボカワニナ</b> <i>Semisulcospira (Biwamelania) decipiens multigranosa</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) エナ目 (MESOGASTROPODA) カワニナ科 (Pleuroceridae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>前種タテヒダカワニナに似るが、顕著な縦肋上に顆粒がよく発達している。顆粒数は5～8個。殻底肋は2～3本。殻高は30～40mm程度。個体変異が著しい種である。琵琶湖水系の固有種(特産種)であり、岐阜県には分布していない。しかし、ホテル養殖のためのエサ資源として、人為的に琵琶湖水系から岐阜市内各地に大量投入された。それらが、一部の地域で生き残っているか或いは繁殖している可能性もある。</p> <p><b>【県内分布】</b>滋賀県琵琶湖水系の固有種(特産種)であるため、岐阜県内に自然分布はしていない。</p> <p><b>【市内分布】</b>新荒田川、板屋川、戸石川、太郎丸野田や芥見影山の水路などで新鮮な死殻または生貝を確認した。</p>		 <p>撮影:市原俊</p>

表 11-3 重要な貝類の概要等 (2/7)


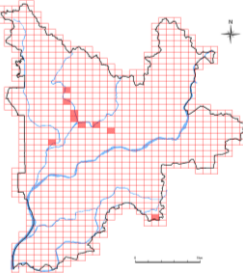

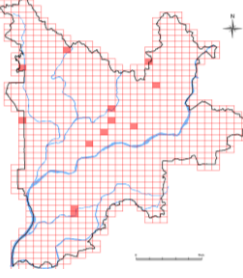
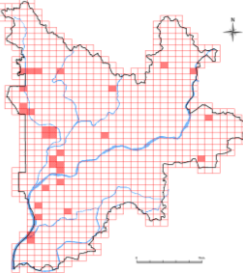

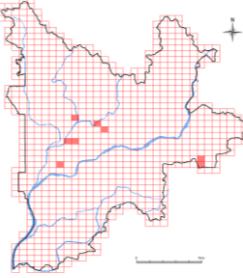

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>カゴメカワニナ</b> <i>Semisulcospira (Biwamelania) decipens reticulata</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) ニナ目 (MESOGASTROPODA) カワニナ科 (Pleuroceridae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>前種イボカワニナに似るが、顆粒はそれに比べて弱い。殻底肋は2~3本。殻高は40mm程度。個体変異が著しくイボカワニナと区別できない場合がある。琵琶湖水系の固有種(特産種)であり、岐阜県には分布していない。しかし、ホタル養殖のためのエサ資源として人為的に琵琶湖水系から岐阜市内各地に大量投入された。それらが一部の地域で生き残っているか、あるいは繁殖している可能性もある。</p> <p><b>【県内分布】</b>滋賀県琵琶湖水系の固有種(特産種)であるため、岐阜県内に自然分布はしていない。</p> <p><b>【市内分布】</b>板屋川、彦坂川南の竹田排水路、岩井の念珠池などで新鮮な死殻または生貝を確認した。</p>		 <p>撮影:市原俊</p>
<p><b>クロダカワニナ</b> <i>Semisulcospira (Biwamelania) kurodai</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) ニナ目 (MESOGASTROPODA) カワニナ科 (Pleuroceridae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>外形は棍棒状でカワニナやチリメンカワニナに比べて細高く、殻底肋が5~6本と少ない。殻高は30~35mm程度。胎児殻の体層には瘤状突起がある。蓋は革質の卵形。雌雄異体の卵胎生で育児嚢をもつ。流れが極めて緩やかな河川下流域や水路、溜池に生息する。泥が堆積している場所を好む。カワニナと同属であるが、遺伝子分析の結果は琵琶湖固有種のタデヒダカワニナなどと近縁であり分類学的な再検討が必要であろう。</p> <p><b>【県内分布】</b>関市、川辺町、笠松町、羽島市、海津市などの河川で確認記録があり、分布域は美濃地方の低地に限られる。</p> <p><b>【市内分布】</b>天神川長池橋下流、板屋川・権現川合流点下、芋島1号支線排水路、伊自良川(伊鳥緑地北部)などで発見された。</p>		 <p>撮影:市原俊</p>
<p><b>コシダカヒメモノアラガイ</b> <i>Fossaria truncatula</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) モノアラガイ目 (BASOMMATOPHORA) モノアラガイ科 (Lymnaeidae)</p> <p>環境省RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻高5mm、殻径2.5mm程度で、殻口高は殻高の5割程度を占めるが、ヒメモノアラガイのように広くはならない。生時は軟体部が透けて黒っぽく見えるが、殻は黄白色から胎色の半透明である。ヨーロッパ原産の外来種であると考えられているが、在来種である可能性も否定できない。岐阜市内では水路の亀裂など裂孔に付着している個体を発見したが、個体数は各地点とも極めて少なかった。圃場整備や冬季乾燥化で減少傾向にある。</p> <p><b>【県内分布】</b>高山市(旧吉城郡上室村)本郷、海津郡海津町油島千本松原からの記録がある。</p> <p><b>【市内分布】</b>福光排水路、尾花自然公園北水田、金華排水路、三里排水路、西改田排水路、岩利排水路などで発見された。</p>		 <p>撮影:川瀬基弘</p>
<p><b>モノアラガイ</b> <i>Radix (Radix) japonica</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) モノアラガイ目 (BASOMMATOPHORA) モノアラガイ科 (Lymnaeidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻高20mm程度で、殻口が著しく広がって殻口高は殻高の7~8割程度を占める。軸層は多少ねじれる。殻表面には細かい成長脈がみられる。かつては日本各地に普通に生息していたが、1980年代後半頃から各地で減少している。今回得られた個体は、環境省レッドリストで準絶滅危惧種に指定されている在来種ばかりでなく、最近分布を広げている外来種の可能性もある。似て非なる個体の場合、殻形態だけでは識別は困難である。</p> <p><b>【県内分布】</b>海津町、可児市などに記録があるが、記録自体が非常に少ない。</p> <p><b>【市内分布】</b>則松排水路、権現川、江崎排水路、島田排水路、六条排水路、阿弥陀寺排水路など特に西部で発見された。</p>		 <p>撮影:川瀬基弘</p>
<p><b>ヒラマキミズマイマイ</b> <i>Gyraulus chinensis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) モノアラガイ目 (BASOMMATOPHORA) ヒラマキガイ科 (Planorbidae)</p> <p>環境省RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻径5mm程度の扁平な平巻き形。周縁は円いか、わずかにキール状になる。本種はヒメヒラマキミズマイマイに比べて大型で同サイズのそれと比較すると巻き数が少ないことで区別できる。市内で本種の生息を確認できたのは数地点のみであり、市内に分布するヒラマキガイ属はヒメヒラマキミズマイマイが大部分を占める。生時は付着物に覆われていることが多い。水草の輸入に伴い、近似した外国産種が移入されているようである。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、笠松町、根尾村、明智町、中津川市などの主に水田で記録されているが情報はあまり多くない。</p> <p><b>【市内分布】</b>古市場町東町田の水田、島3号支線1号排水路、岩滝西2丁目の水田などで発見された。</p>		 <p>撮影:川瀬基弘</p>



表 11-3 重要な貝類の概要等 (3/7)

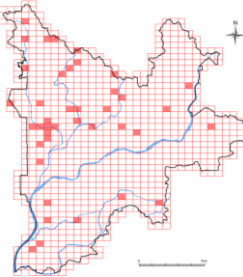

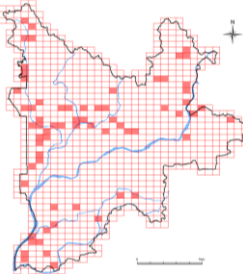

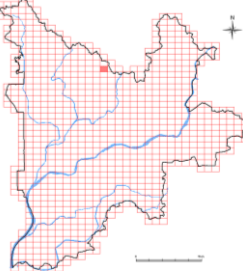
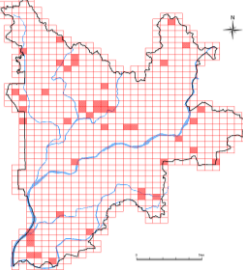



種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>ヒメヒラマキミズマイマイ</b> <i>Cyraulax pulcher</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) モノアラガイ目 (BASOMMATOPHORA) ヒラマキガイ科 (Planorbidae)</p> <p>環境省RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻径2~3mm程度の扁平な平巻き形。同大の前種ヒラマキミズマイマイに比べると螺管は細くて巻き数が多く殻高が低いとされるが、これらの特徴は相対的であり明確に区別することは困難である。そこで本種と前種のDNA分析をしたところ種としての十分な違いがあった。国内に広く分布していると考えられるが、同定が困難であり十分な情報が得られていないと考えられる。岐阜市内では水田の水草に附着して各地で多産した。</p> <p><b>【県内分布】</b>各地に分布していると思われるが、生息記録の示された論文等は管見に入らなかった。</p> <p><b>【市内分布】</b>森西、雛倉、佐野、岩利、日置江、曾我屋、上尻毛八幡、西秋沢など市内各地の水田・水路に生息している。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>ヒラマキガイモドキ</b> <i>Polypylis hemisphaerula</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) モノアラガイ目 (BASOMMATOPHORA) ヒラマキガイ科 (Planorbidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻径5mm程度の平巻き形。体層の底面は平らで、臍孔は急激に落ち込み狭く深い陥没となる。螺塔は緩やかな弧を描き、殻頂部は浅く陥没する。螺管下面からは軌状の内彫刻が数本透視できる。螺管内の反対側にも同様な内突起がある。市内の水田や水路に生息し多産することが多い。環境省レッドリストで準絶滅危惧種に指定されているが、市内では地点数、個体数ともに比較的多く、特定の水田では極めて多く生息していた。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市で発見した。そのほかにも県内各地に分布していると思われるが、生息情報は管見に入らなかった。</p> <p><b>【市内分布】</b>加野、岩井、溝口、森西、雛倉、茶屋新田、柳津町、御望、領下など市内各地の水田・水路に生息している。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>イボイボナメクジ</b> <i>Granulilimax fuscicornis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) 収眼目 (SYSTELLOMATOPHORA) ホノシヒダナメクジ科 (Rathouisiidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>体長25mm程度。本種は他のナメクジを含む陸産貝類と異なり、粘液を持たないのが特徴であるため、匍匐後に粘液が残らない。肉食性であり他の陸産貝を捕食する。休止時は触角を引き込み昆虫の幼虫のようにも見えるが、匍匐時は触角を伸ばし体も細長く伸びる。背面の中央には不明瞭な太い縦線があり、それを囲むように細い明瞭な環状の線が模様としてみられる。普通のナメクジとは別系統である。滅多に見つからない希少種である。</p> <p><b>【県内分布】</b>養老町桜井、大垣市などで確認されているが生息個体数は少ない。</p> <p><b>【市内分布】</b>栗野西の八幡宮の石塔上で生体1個体のみを発見した。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>ナガオカモノアラガイ</b> <i>Oxyloma hirasei</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) オカモノアラガイ科 (Succineidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻はとても薄く、やや光沢のある黄褐色の半透明。卵形~紡錘形で体層は長い。殻高10~13mm程度。殻口が著しく長く広がって殻口高は殻高の8割程度を占める。淡水産のモノアラガイなどに似ているが、眼が触角の先端についていることで区別できる。陸産種であるが、水田・水路周辺の草地や水路の水際など淡水産貝類調査の際に比較的好く見つかることが多い。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、大垣市、笠松町などに記録があるが、分布情報自体が非常に乏しい。</p> <p><b>【市内分布】</b>洞、安食、打越、切通、岩滝東、芥見、岩利、日置江、柳津町、上西郷、高田、出屋敷、椿洞など市内各地。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>ナタネキバサナギガイ</b> <i>Vertigo eogia eogia</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) キバサナギガイ科 (Vertiginidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は微小で殻高3mm程度、殻径2mm程度、褐色または赤みがかった淡褐色で平滑な蛹形の巻貝。螺頂は円く、体層は次体層の1.5倍程度。縫合は深く、各螺層はよく膨らむ。殻口は半円形で殻口内に歯がでる。臍孔は広く開いている。本種は湿地性種であるため、湿地または水田周辺など湿地に準ずる環境に生息する。岐阜市内では湿地状の休耕田などに生息していたが、地点数・個体数ともに非常に少なかった。</p> <p><b>【県内分布】</b>分布していると思われるが、生息記録の示された論文等は管見に入らなかった。</p> <p><b>【市内分布】</b>戸石川新田橋脇の休耕田と畦、芥見大退(津保川右岸)の2地点のみで確認されたが個体数は極めて少ない。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>



表 11-3 重要な貝類の概要等 (4/7)

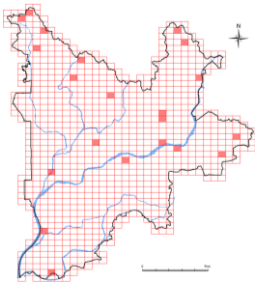

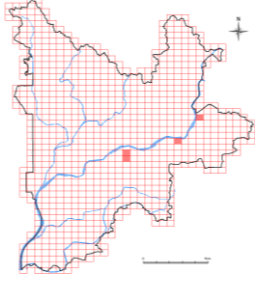

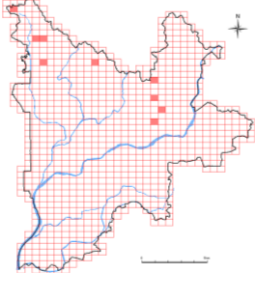



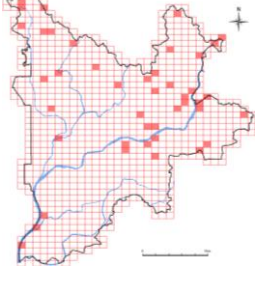

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>ヒラベッコウ</b> <i>Bekkochlamys micrograpta</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ベッコウマイマイ科 (Helicarionidae)</p> <p>環境省RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻はやや小形で、殻高5mm、殻径10mm程度。半透明、淡い黄褐色で光沢が強い。螺塔は低く扁平で、わずかに緩やかに突きでる。各層は緩やかに広がり、体層は著しく広くなり、その幅は次体層の倍である。周縁は円い。殻表は滑らかで、繊細な成長線と細密な螺線によって彫刻されている。殻口はわずかに斜位で広い新月形、その周縁は鋭く尖る。殻軸は前方へ広がる。臍孔は狭く、その幅は殻径の1/10ぐらいである。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、串原村、白川村、高根村などに記録がある。</p> <p><b>【市内分布】</b>雛倉、日野北、村山、大洞、鏡岩、鷲山、諏訪山、山県北野、出屋敷、次木、茂地、外山など市内各地。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>レンズガイ</b> <i>Otesiopsis japonica</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ベッコウマイマイ科 (Helicarionidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は薄く、殻高7~9mm、殻径13mm前後。半透明で淡い黄褐色。凸レンズ形で、周縁の竜骨は鋭い。螺塔は低い円錐形で、螺頂は鈍い。成長線は不規則に現れる。殻底は膨れ、中央の軸部はくぼむ。殻口は斜位。唇は薄く、底唇は湾曲し、上方の周縁角付近は広がり反転して溝状となる。狭い臍孔がある。軟体は淡いアメ色。両肩部は太く漆黒黒帯縦条が現れる。足部側面の中ほどから後方にわたり黒い小さな斑紋が若干散在する。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃市、揖斐川町で確認記録があるが、1979年揖斐川町(旧谷汲村地域)で確認以後の記録がなかった。</p> <p><b>【市内分布】</b>芥見町屋、鏡岩、日野の河畔林や山麓林に分布していたが個体数は極めて少なく生体の発見は困難。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>ヒゼンキビ</b> <i>Parakaliella hizenensis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ベッコウマイマイ科 (Helicarionidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻径3mm程度の微小種。ハリマキビよりも体層が一回り小さく、ヒメハリマキビよりも丸みをおびることで区別できる。市街地や平地には分布しない山地性種であり、市内では北部の山間部の数地点で発見された。発見されたいずれの地点でも個体数は少なかった。愛知県豊田市でも本種の記録があるが、広大な面積に比べ、岐阜市以上に確認地点は極めて少なく、各地点における生息個体数も少ないのが一般的である。</p> <p><b>【県内分布】</b>養老町桜井(養老山系の北部の低山地・石灰岩地帯)や揖斐川町白倉谷からの報告がある。</p> <p><b>【市内分布】</b>雛倉、則松、外山、三田洞東、岩井、長良など比較的自然度の高い北部地域に生息し南部地域では未確認。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>ウメムラシタラ</b> <i>Coneuplecta (Sitalina) japonica</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ベッコウマイマイ科 (Helicarionidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は微小で、殻高約1.2mm、殻径1.8mm程度。螺塔が低く、巻数は少なく、低い円錐形。縫合はくびれ、各層には段差を有し、3本程度の螺状殻皮を持つ。体層底部は平たく、周縁の角は尖らない。殻は淡黄褐色。殻口は肥厚・反転せず、内部に歯はない。雌雄同体。低標高の比較的自然度の高い森林の落葉下に生息する。コンタカシタラガイと比べると体層の周縁に3本の螺状肋があることで識別できる。</p> <p><b>【県内分布】</b>揖斐川町、高山市高根町野麦本谷、揖斐郡大野町稲富白山、大垣市赤坂町金生山などで記録がある。</p> <p><b>【市内分布】</b>三輪、溝口、日置江、茂地、芥見町屋など主に北東部に分布しており、リター層から発見された。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>オオウエキビ</b> <i>Trochochlamys fraterna</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ベッコウマイマイ科 (Helicarionidae)</p> <p>岐阜県RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は微小で、殻高3mm、殻径2mm程度。淡い黄褐色。円味のある円錐形。縫合は深く、螺層はよく膨れる。体層の周縁角は鋭い。殻底は緩やかな弧状となる。殻口はほぼ菱形、その周縁は薄く鋭い。軸唇は少し斜めに広がり、臍孔の一部を覆う。臍孔は狭く小さく開く。環境省レッドリストの情報不足種であるが市内の比較的多くの地点で発見された。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、飛騨市河合町川角、揖斐郡大野町稲富白山などで記録されている。</p> <p><b>【市内分布】</b>且島、溝口、三輪、大洞、雛倉、山県岩、次木、日置江、栗野西、外山、佐野、岩田東、長良など市内全域。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>

表 11-3 重要な貝類の概要等 (5/7)

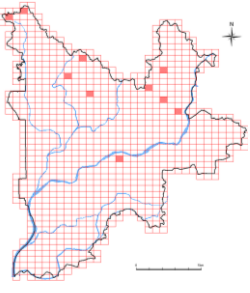

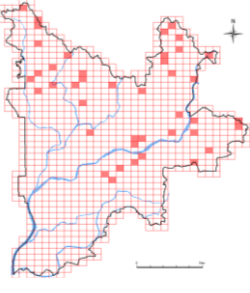

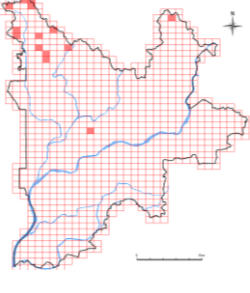
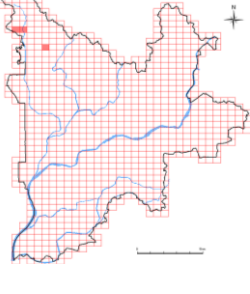

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>タカキビ</b> <i>Coneuplecta praealta</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ヘッコマイマイ科 (Helicarionidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻高は4mm、殻径2.5mm程度で小型である。殻はきわめて薄く、淡い褐色で半透明である。螺塔は高い円錐形の形態である。螺層は多く、その頂部は鈍い。体層に周縁角があり、殻底はわずかに膨れる。殻口は半円形、その唇縁は薄い。軸唇は少し広がり三角形となる。臍孔がある。山地の森林内に生息し、薄暗い谷など湿潤な環境下において、アオキなどの常緑低木の葉の裏側に付着していることが多い。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、下呂町、揖斐川町などに確認記録があるが、いずれの産地においても個体数は少ない。</p> <p><b>【市内分布】</b>太郎丸諏訪、雛倉、外山、溝口童子、椿洞、彦坂、岩利など北部の山間部に生息し、南部地域では未発見。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>ヒメカサキビ</b> <i>Trochochlamys subcrenulata</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ヘッコマイマイ科 (Helicarionidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は微小で殻高2.2mm、殻径3mm程度。淡い褐色で半透明。カサキビより著しく低い円錐形。螺層は緩やかに膨れる。体層の周縁角は鋭く突起している。殻表は繊細な糸状縦脈と多少不明瞭な螺旋脈を現す。殻口はやや菱形、その周縁は薄い。軸唇はやや垂直にわずかに広がる。臍孔は狭く開いている。軟体は淡灰～赤褐色。触角は黒褐色。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、岐阜市長森前一色山に記録がある。微小種であるため分布情報が非常に乏しい。</p> <p><b>【市内分布】</b>大洞、諏訪山、雛倉、山県北野、出屋敷、太郎丸、茂地、三輪、岩田東、則松、石谷、安食などに分布し、南部には少ない。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>ケハダビロウドマイマイ</b> <i>Nipponochloritis fragilis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ニッポンマイマイ科 (Camaenidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻はやや小形で、殻高15～20mm程度。黄褐色。螺塔は低い。縫合はやや深く、各層はよく膨れる。体層は急に膨大となる。殻表に比較的荒い針毛様の殻皮が発達する。殻口は成熟しても反転しない個体が多い。ビロウドマイマイ(トウカイビロウドマイマイ)に比べて、殻皮毛の密度が低く粗いのが特徴である。山間部の倒木下や伐採して積み上げられた竹材の下などから発見されたが、生息地は少なく個体数も少なかった。</p> <p><b>【県内分布】</b>揖斐川町や大野町など伊吹山周辺地域を中心に少数の生息地が確認されている。</p> <p><b>【市内分布】</b>鷲山、出屋敷、雛倉、外山、佐野などで発見されたが各地点ともに個体数は非常に少ない。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>ビロウドマイマイ</b> <i>Nipponochloritis oscitans</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ニッポンマイマイ科 (Camaenidae)</p> <p>環境省RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>殻高12mm、殻径17mm程度、殻はやや球形で、黄褐色。殻表には短い殻毛が密にある。螺塔はほとんど平らで、縫合の間は緩やかに中高となる。次体層と体層は下降し、円形となる。殻口はわずかに斜位、広い円形、その唇縁は薄い。滑層は内唇から外側へ広がって半円状となる。臍孔がある。ケハダビロウドマイマイに比し殻皮毛の密度が高いものを本種に位置づけた。全国に分布する本種には複数種が含まれている可能性が高い。</p> <p><b>【県内分布】</b>可見市、瑞浪市、多治見市など東濃地域を中心に記録があるが個体数は多くはない。</p> <p><b>【市内分布】</b>太郎丸林道奥および岩田西3丁目(八王子神社)の2地点で生息を確認したが生息個体数は非常に少ない。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>ヤマタカマイマイ</b> <i>Satsuma papillifoemis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) ニッポンマイマイ科 (Camaenidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻の高さ30mm、直径25mm程度になる卵形の陸産巻貝である。色は淡黄褐色で周囲に細い淡い茶褐色の線があることが多い。希に無帯のこともある。殻口の底唇と軸唇とは直角になる。臍孔は閉じる。殻口外唇は広がって乳白色になる。軟体は淡い茶褐色で、顆粒状模様を現している。自然度の高い林内や川沿いの朽木や落葉の下など湿度の高い場所に生息する。岐阜市内での生息地は限られており、生息数も少ないと考えられる。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃市、本巣市、山県市、大垣市、揖斐川町、郡上市、関市、白川村、高山市、飛騨市などに確認記録がある。</p> <p><b>【市内分布】</b>掛洞プラント西、奥(龍峰寺西)、則松(熊野神社付近)の3地点で生息を確認したが発見は極めて稀である。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>



表 11-3 重要な貝類の概要等 (6/7)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>ヒルゲンドルフマイマイ</b> <i>Trishoplita hilgendorffi</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) マイマイ目 (STYLOMMATOPHORA) オナジマイマイ科 (Bradybaenidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻はやや大きく、殻高8mm、殻径12mm程度。色は赤褐色～黄褐色で鈍い光沢がある。殻口外唇はやや厚く広がって淡色になる。近似種のマメマイマイに比べて、より大きくなることで区別できる。市内各地に分布するものの個体数は少なかった。金華山周辺地域に多く生息しているようである。地方種や亜種として、アメヒロヒルゲンドルフマイマイやオオヒルゲンドルフマイマイなどが知られている。</p> <p><b>【県内分布】</b>美濃市、山県市、関市、大垣市、養老町、垂井町、関ヶ原町、揖斐川町、池田町、郡上市などに確認記録がある。</p> <p><b>【市内分布】</b>黒野、槻谷、達目洞、鷲山、下尻毛、長森岩戸、上加納山、伊奈波通、芥見、岩井、三田洞など市内各地。</p>		 <p>撮影: 川瀬基弘</p>
<p><b>カワシンジュガイ</b> <i>Margaritifera laevis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) イシガイ目 (UNIONOIDA) カワシンジュガイ科 (Margaritiferidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>殻長10cm程度になる淡水産二枚貝。殻は褐色から黒色になり、内側は青味がかかった真珠光沢が強い。背縁は前方に傾斜し、前縁は楕円形に突出する。前閉殻筋痕は丸い耳状である。一般に、夏季でも水温が20度以上にならないような河川上流の泥～礫底に生息する。生育場所の流速は比較的速く、多くは早瀬～平瀬に生息する。市内での生息は極めて稀で、グロキディウム幼生の寄生した魚類の移動にともなう偶因分布の可能性はある。</p> <p><b>【県内分布】</b>高山市、下呂市、郡上市、揖斐川町などで確認されている。</p> <p><b>【市内分布】</b>安食(洞川)および石谷(村山川)で生息を確認できたが、個体数は非常に少なく、発見は極めて稀である。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>カラスガイ</b> <i>Cristaria plicata</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) イシガイ目 (UNIONOIDA) イシガイ科 (Unionidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 情報不足</p>	<p><b>【種概要】</b>日本産の淡水産二枚貝としては最大級で殻長は約40cmにまで成長する。ドブガイ類(タガイやヌマガイなど)と混同されることが多いが、本種にはドブガイ類にはない後側歯があり区別は明確である。本種の属するインガイ科二枚貝は河川の下流域や平野部の用水路などの緩やかな流れで、水量が多く水質の良い砂泥底を生息場所としている。岐阜県レッドデータブックでは情報不足種とされているが岐阜市内では絶滅寸前である。</p> <p><b>【県内分布】</b>近年県内では揖斐川水系下流域で少数の生息が確認されているに過ぎない。</p> <p><b>【市内分布】</b>伊自良川と新堀川の合流点および長良川と伊自良川の合流点で生息記録があるが絶滅寸前と考えられる。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>オバエボシガイ</b> <i>Inversidens brandti</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) イシガイ目 (UNIONOIDA) イシガイ科 (Unionidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅰ類</p>	<p><b>【種概要】</b>日本固有種。殻は卵円形で膨らみ、後端は嘴状にやや尖る。日本産イシガイ科貝類としては最も小型種で殻長は通常5cmを超えない。殻頂付近には弱い縮縮状の彫刻がある。収足筋痕は前閉殻筋痕とつながる。鰓葉に蓄えられた卵はグロキディウム幼生に成長した後放出され、グロキディウム幼生はヨシノボリ類などの体表に付着し寄生生活を経て底生生活に入る。市内北西部で発見されたが、いずれの地点も個体数は少なかった。</p> <p><b>【県内分布】</b>揖斐川町や関市などに記録があるが、生息地保護のため分布情報の一部は非公開である。</p> <p><b>【市内分布】</b>深坂、石谷、椿洞、村山、安食、打越、深坂など北部の河川や水路に生息するが個体数はとても少ない。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>マツカサガイ</b> <i>Inversidens (Pronodularia) japonensis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) イシガイ目 (UNIONOIDA) イシガイ科 (Unionidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>日本固有種。日本産イシガイ科貝類としては中型で殻長は通常9cmを超えない。殻は卵円形で、膨らみは弱く平たい。湖沼産の個体は大型になることがある。殻のほぼ全面に強いさざ波状の彫刻がある。右殻の擬主歯は三角状である。小川や用水路の礫～砂泥底に生息する。25℃で完全に乾燥させても数日間は生きられる。寿命は約10年。岐阜市内では、長良川以北の小河川や水路に比較的多く見られた。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、揖斐川町、関市、萩原町などに記録があるが、生息地保護のため分布情報の一部は非公開である。</p> <p><b>【市内分布】</b>安食、佐野、交人、椿洞、雛倉、打越など北部の河川や水路に生息し、インガイ科の中ではやや個体数が多い。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>

表 11-3 重要な貝類の概要等 (7/7)

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<p><b>トンガリササノハガイ</b> <i>Lanceolaria grayana</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) イシガイ目 (UNIONOIDA) イシガイ科 (Unionidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>日本固有種。日本産イシガイ科貝類としては大型で殻長は15cmに成長する個体もある。前縁は丸く、後端は鋭く尖る。殻頂は前方に寄る。殻表には不明瞭な皺状の彫刻がある。宿主はオイカワ、ヨシノボリ、カワムツで、主に鯉に寄生する。小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。移動能力は高いが、あまり移動しない。岐阜市内では、主に長良川以北の水路と小河川に生息するが、個体数はいずれも少ない。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、海洋町、揖斐川町、関市などに記録があるが、生息地保護のため分布情報の一部は非公開である。</p> <p><b>【市内分布】</b>正木、深坂、佐野、石谷、椿洞、村山、安食、太郎丸、今嶺、出屋敷など主に北部の水路や河川に生息する。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>カタハガイ</b> <i>Obovalis omiensis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) イシガイ目 (UNIONOIDA) イシガイ科 (Unionidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>日本固有種。日本産イシガイ科貝類としては中型で殻長は通常8cmを超えない。左右両殻ともやや強い三角形の1主歯を持つが後側歯はない。この特徴が片歯(かたは)という和名の由来である。殻表は平滑で、後背縁に放射状肋がある。内面は青味を帯びた真珠光沢をもつ。小川や用水路の砂礫～砂泥底に生息する。岐阜市内では、県で絶滅危惧Ⅰ類に指定されているオハエボシガイよりも地点数、個体数ともに少なかった。</p> <p><b>【県内分布】</b>関市、揖斐川町などに記録があるが、生息地保護のため分布情報の一部は非公開である。</p> <p><b>【市内分布】</b>深坂、大学北、交人、石谷、北野西、則松など北部の小河川や水路に生息するが個体数は極めて少ない。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>イシガイ</b> <i>Unio (Nodularia) douglasiae nipponensis</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) イシガイ目 (UNIONOIDA) イシガイ科 (Unionidae)</p> <p>岐阜県RL: 絶滅危惧Ⅱ類</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は細長く5cm程度に成長して黒い殻色をもつ。全国に広く分布し、川の中・下流や水路、湖沼に生息する。タナゴ類の産卵対象となる。用水路の三面張りや生活排水、農業の流入などで生息環境の悪化が進んでおり、各地で減少している。長良川以北の水路や稀に小河川に生息していたが、個体数は各地点ともに非常に少なかった。岐阜市内において、イシガイ類の中ではマツカサガイがやや多産するが、イシガイはかなり少ない。</p> <p><b>【県内分布】</b>瑞浪市、関市、羽島市、坂祝町、笠松町などに記録があるが、生息地保護のため分布情報の一部は非公開である。</p> <p><b>【市内分布】</b>佐野、石谷、椿洞、安食、太郎丸、正木、城田寺、柳戸など北部の河川や水路に生息するが個体数は多くない。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>ヤマトシジミ</b> <i>Corbicula japonica</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) マスダレガイ目 (VENEROIDA) シジミ科 (Corbiculidae)</p> <p>環境省RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻長数cmの亜三角形の二枚貝。殻表面には成長脈があり、黄褐色から黒い殻皮で被われる。殻内面には真珠光沢がなく、白色や淡青色、濃い紫、淡黄色などに彩色される。汽水性種であり、本来岐阜市内には生息しない。中西部の早田川で数個体の生貝を採集したが、淡水域には分布しない種なので明らかに人為的に放たれた個体である。念のため遺伝子分析を行ったところ、ヤマトシジミの塩基配列に一致した。</p> <p><b>【県内分布】</b>汽水性種であり、海洋町、笠松町などの河川感潮域に確認記録がある。</p> <p><b>【市内分布】</b>中西部の早田川で数個体の生貝を採集したが、明らかに人為的に放たれた個体である。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>
<p><b>マシジミ</b> <i>Corbicula leana</i></p> <p>軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) マスダレガイ目 (VENEROIDA) シジミ科 (Corbiculidae)</p> <p>環境省RL: 絶滅危惧Ⅱ類 岐阜県RL: 準絶滅危惧</p>	<p><b>【種概要】</b>殻は30mm程度の亜三角形で、殻色は黄褐色から黒褐色を呈し光沢はほとんどない。小型の二枚貝で、湖岸や河川の砂地に分布する。汽水域に分布するヤマトシジミと比べると、殻の高さが低く、光沢がにぶい。また殻の表面に小さく黒い斑模様がある。幼貝は緑黄色で成長すると黒くなる。比較的きれいな水が流れる川や池に生息する。岐阜市内では外来種のタイワンシジミが分布を拡大し、マシジミの生息地は激減している。</p> <p><b>【県内分布】</b>かつては県内各地の河川などに広く分布していたが、近年はいずれの地域でも激減している。</p> <p><b>【市内分布】</b>市内各地の水路、小河川、中河川に生息しているが、タイワンシジミに比べて個体数は非常に少ない。</p>		 <p>撮影: 市原俊</p>

### 11-4 外来生物法などに係る貝類

岐阜市内に生息している貝類のうち、外来生物法に係る貝類の生息記録はない。一方、外来生物法の規制対象外であるが、環境省で指定している要注意外来生物として、表 11-4 のとおりスクミリンゴガイおよびタイワンシジミの2種が挙げられる。

このうちスクミリンゴガイはジャンボタニシとも呼ばれ、市内南部の水田地帯全域に生息しており更に分布を拡大すると考えられる。北部地域への進入地点は、南部地域に比べるとかなり少なく限局的であるが、一度侵入すると周辺地域への分散は比較的速いスピードで進行すると思われる。侵入・繁殖した本種を取り除くのは困難であるが更なる分布拡大に至らないように注意を払いたい。水田の除草用にスクミリンゴガイに雑草を食べさせる有効利用もあるが、稲が苗の時期には稲そのものも食害されるのでやはり駆除の対象として無視できない状況である。タイワンシジミは、既に岐阜市内全域の河川や水路などに分布している。本種の繁殖とは対照的にマシジミの生息地と個体数が市内で激減していることも明らかである。タイワンシジミは雌雄同体であり雄性発生をするという性質上、稚貝たった1個体の侵入によってでもマシジミをタイワンシジミへと置き換えてしまう可能性がある。スクミリンゴガイ同様に、タイワンシジミの生息地から本種を完全に除去することは不可能に近い。マシジミを保護するためにも、マシジミのみが生息している地域への侵入を防ぐような配慮が必要である。なお、本調査では殻形態のみでタイワンシジミとマシジミの区別が困難な個体は遺伝子分析により同定した。外来生物法などに係る貝類の概要・分布状況などについては、表 11-5 のとおりである。

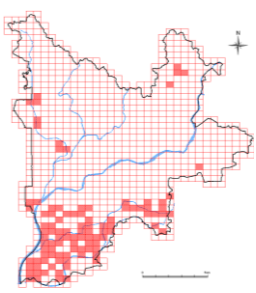

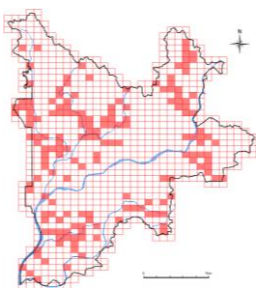

表 11-4 生息記録のある外来生物法などに係る貝類

科名	和名	外来生物法
リンゴガイ科	スクミリンゴガイ	要注意外来生物
シジミ科	タイワンシジミ	要注意外来生物

注) 表中の各カテゴリーの内容については、以下のとおりである。

外来生物法 要注意外来生物：特定外来生物被害防止法による規制の対象外であるが、すでに日本に持ち込まれ、生態系に悪い影響を及ぼす恐れのある生物。環境省が指定。

表 11-5 外来生物法などに係る貝類の概要等

種名等	種の概要	分布メッシュ	写真
<b>スクミリンゴガイ</b> <i>Pomacea canaliculata</i> 別名：ジャンボタニシ 軟体動物門 (MOLLUSCA) マキガイ綱 (GASTROPODA) エナ目 (MESOGASTROPODA) リンゴガイ科 (Ampullariidae) 外来生物(環境省指定): 要注意外来生物	<b>【種概要】</b> 南アメリカのラブラタ川流域原産で、日本へは食用に1981年に台湾から輸入された。その後逸脱した個体が野生化して日本中に分布を広げている。通称ジャンボタニシ。殻径30～40mm程度の球形で、温暖地では60～70mmに成長する。殻は黄褐色から黒褐色の地に濃色のラインを多数巡らす。初夏から秋にかけて水際から50cmほどの高さのコンクリート壁などに赤桃色の卵塊を産み付ける。岐阜市南部の水田や水路で多産する。 <b>【県内分布】</b> 瑞浪市、多治見市、本巣市、可児市、笠松町などに記録があり、かなり分布を広げていると考えられる。 <b>【市内分布】</b> 南部全域のやや水質の悪い水田・水路に多産する。北部地域にも分布を拡大しつつある。		 撮影：市原俊
<b>タイワンシジミ</b> <i>Corbicula fluminea</i> 軟体動物門 (MOLLUSCA) ニマイガイ綱 (BIVALVIA) マスダレガイ目 (VENEROIDA) シジミ科 (Corbiculidae) 外来生物(環境省指定): 要注意外来生物	<b>【種概要】</b> マシジミに非常によく似ているが、本種は殻表面の輪肋間がマシジミより広く規則的に配列する、小月面や楕面が色分けされたり輪郭が明瞭である、幼貝時に茶褐色の細かい放射状線がある、殻表面が鮮黄色から濁黄色・オリーブ色などの淡色系が多いなどの特徴をもつ。中国・朝鮮半島などから侵入した外来種であり、日本各地に分布を広げ在来種との交雑が懸念されている。岐阜市内では既に全域に広がっている。 <b>【県内分布】</b> 関市、瑞浪市、多治見市、可児市などで発見されており、県内各地に分布を広げていると考えられる。 <b>【市内分布】</b> ほぼ市内全域の河川や水路に分布を広げており各地で多産する。水田や溜池に生息していることもある。		 撮影：市原俊